

2020年4月 今月のトピック

# 『コロナショックにおける 投信市場の資金流入入動向』

ファンドアナリスト 標 陽平

2020年4月15日作成

コロナショックにおける投信市場の資金流出入動向を確認する。

## 『ポイント』

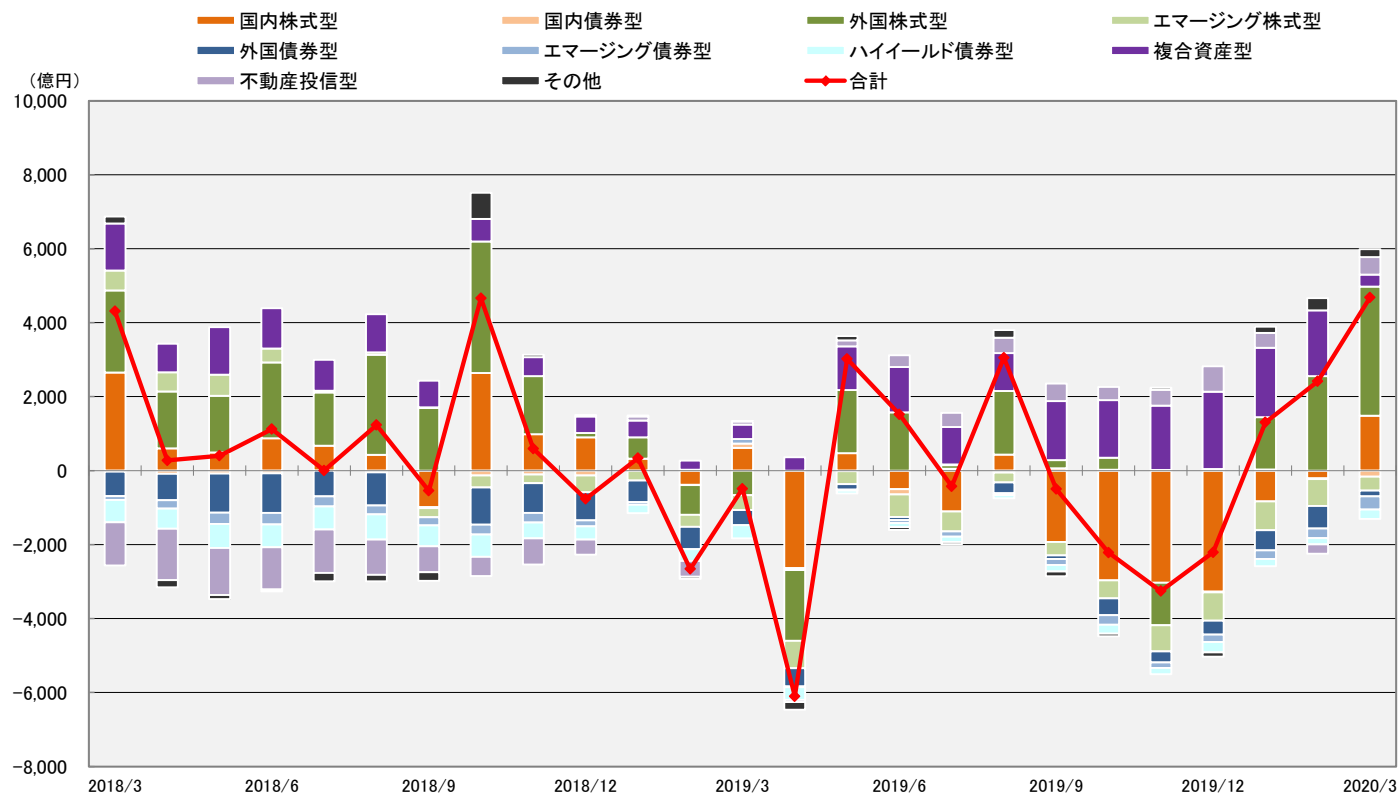
- 2019年に年間で流出超となった投信市場の資金流出入は、2020年以降回復傾向にあり、2020年3月の月間流出入額は約4,700億円の流入超と1年5ヵ月ぶりの水準となった。
- 株式ファンドを中心に資金が流入したが、コロナショックによる相場の下落局面を捉えた押し目買いによる資金流入が中心となっている。
- コロナショックにおいては複合資産型ファンドでもパフォーマンスが悪化しており、低リスクのファンドでは投資初心者などを中心に解約も発生した。
- 低リスクのファンドの一部では相応に下落率を抑制したファンドもみられ、パフォーマンスの良し悪しは異なる結果となった。

## ■ 投信市場の資金流出入動向(過去2年・月次)

まず、過去2年間の投信市場の資金流出入動向を確認する。図1のとおり、2018年までの投信市場はおおむね差し引き流入超で推移していたが、2019年は年間で流出超に転じた。先物等によってレバレッジを効かせた複合資産型ファンドが新たなカテゴリーとして注目されたものの、これまで多額の資金流入を支えていたテーマ型株式ファンドの設定・販売が低調であったことなどが影響したものと考えられる。

しかし、2020年以降は資金流入超に再び転じており、2020年3月の月間流出入額では1年5ヵ月ぶりに4,000億円超の資金流入となった。

図1：投信市場の資金流出入額推移（過去2年・月次）



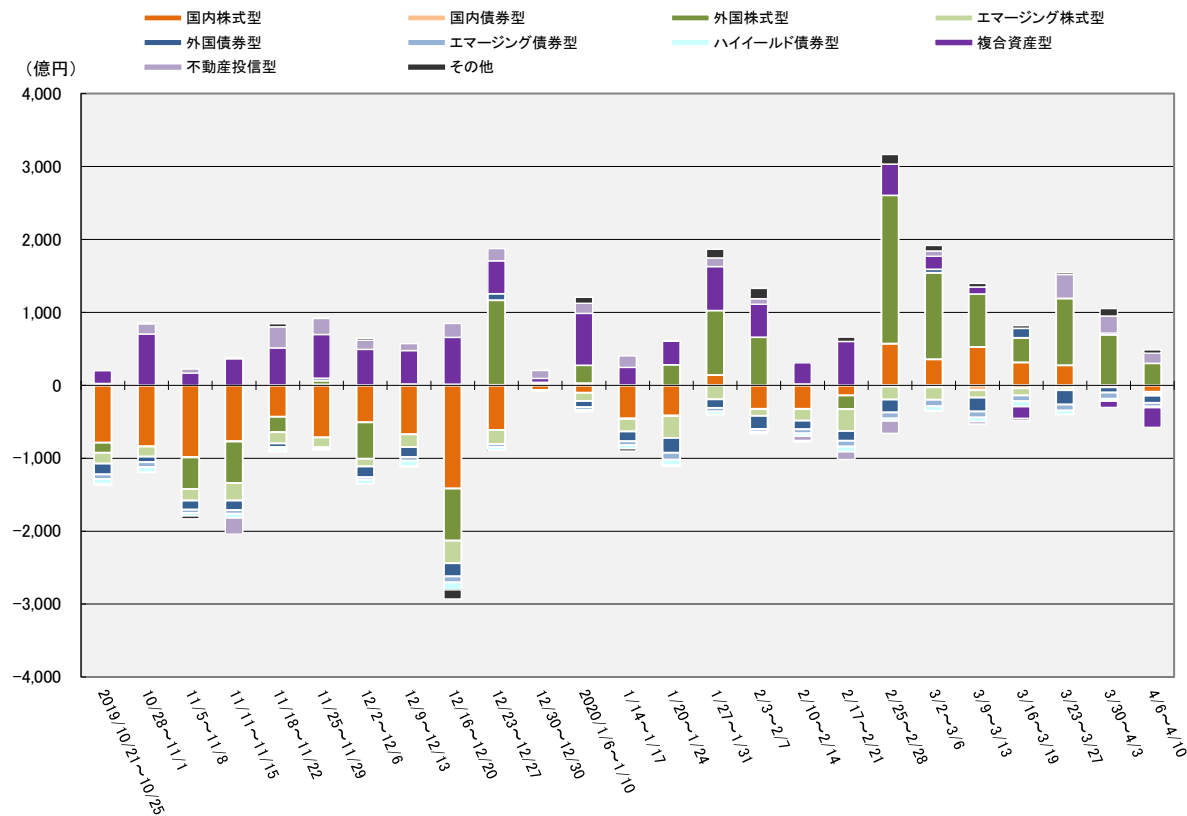
※分析対象ファンドは、ETF、DC専用、SMA専用、公社債投信等を除く公募投信

## ■ 投信市場の資金流出入動向(過去6ヵ月・週次)

次に、過去6ヵ月の資金流出入動向を週次ベースで確認する。図2のとおり、2019年の資金流出は、国内株式型や外国株式型から資金が流出していたことが要因であったことがわかる。日米の株価指数ともに過去最高値を更新する中、利益確定売りの動きに押されたものと考えられる。しかし、2020年になると外国株式型の資金流入に一部回復がみられ、その後コロナショックが始まった2020年2月25日の週以降は国内株式型へも資金流入がみられるなど、流入傾向はより鮮明になった。

日本の投信市場では、相場の上昇・下落を捉えて逆張りの投資を行う投資家が相応にいることから、株価が上昇すると利益確定売りが発生し、下落すると押し目買いが発生する傾向にある。

図2：投信市場の資金流出入額推移(過去6ヵ月・週次)



## ■個別ファンドの資金流入動向

最後に、2020年3月の個別ファンドの資金流入状況を確認することで、コロナショックにおける動向を確認したい。

表1の資金流入上位ファンドでは、「日経225ノーロードオープン」、「日興・インデックスファンド225」、「楽天日本株4.3倍ブル」など、相場下落局面を捉えた短期的な資金が流入したと思われるファンドがランクインしている。米国株式インデックスファンドもランクインしており、コロナショックにおける資金流入の主役は逆張り投資家による資金であったことが確認できる。

表2の資金流出上位ファンドでは、「アムンディ・ダブルウォッチ」、「東京海上・円資産バランスF」、「SMBC・アムンディプロテクト&スイッチファンド」など損失の限定や下落リスクの抑制をうたった低リスクのファンドがランクインした。これらのファンドはリスク許容度の低い投資家や投資初心者が保有しており、市場環境の悪化を受け解約に走ったものと推測される。

今般のコロナショックのように全資産が下落するような局面では、複合資産型ファンドでも厳しい運用結果となったが、下落率を相応に抑えたファンドも一部散見されており、パフォーマンスの良し悪しが際立つ結果となった。とはいえ、ファンドのパフォーマンスは下落局面だけでなく上昇局面も含めて評価することが重要である。足元で相場はやや回復基調にあることから、複合資産型ファンドを中心に今後のパフォーマンスを引き続き注視することとしたい。

表1：流入上位ファンド

順位	ファンド名	投信会社	分類	設定日	流出入額 2020/3 (百万円)
1	GS社債/国際分散投資戦略ファンド 2020-03	AM-One	外国債券型	2020/3/19	37,145
2	TRプライス米国成長株式ファンド	Tロウ プライス	外国株式型	2019/12/27	32,417
3	<b>日経225ノーロードオープン</b>	<b>AM-One</b>	<b>国内株式型</b>	<b>1998/8/21</b>	<b>29,636</b>
4	シティグループ社債/円建て償還時 ターゲットF2020-03	三井住友 DS	外国債券型	2020/3/2	28,250
5	次世代通信関連世界株式戦略ファンド	三井住友 トラスト	外国株式型	2017/12/15	22,789
6	GS・ネットウィンB	GS	外国株式型	1999/11/29	22,748
7	りそな・リスクコントロールファンド 2020-03	りそな AM	複合資産型	2020/3/31	22,474
8	<b>eMAXIS Slim米国株式(S &amp;P500)</b>	<b>三菱UFJ 国際</b>	<b>外国株式型</b>	<b>2018/7/3</b>	<b>20,105</b>
9	<b>日興・インデックスファンド225</b>	<b>日興</b>	<b>国内株式型</b>	<b>1988/6/17</b>	<b>15,863</b>
10	<b>楽天日本株4.3倍ブル</b>	<b>楽天</b>	<b>その他</b>	<b>2015/10/7</b>	<b>15,662</b>

表2：流出上位ファンド

順位	ファンド名	投信会社	分類	設定日	流出入額 2020/3 (百万円)
1	SBI日本株3.7倍AⅢ	SBI	その他	2018/5/9	-13,097
2	<b>アムンディ・ダブルウォッチ</b>	<b>アムンディ</b>	<b>複合資産型</b>	<b>2016/1/29</b>	<b>-13,037</b>
3	<b>東京海上・円資産バランスF(毎月)</b>	<b>東京海上</b>	<b>複合資産型</b>	<b>2012/11/9</b>	<b>-11,276</b>
4	中国人民元ソブリンオープン	岡三	エマージング債券型	2018/10/12	-8,843
5	ラサール・グローバルREITファンド (毎月分配型)	日興	不動産投信型	2004/3/26	-7,792
6	野村PIMCO・世界インカム戦略 ファンドA	野村	外国債券型	2016/4/22	-7,630
7	BNY Mellon・米国株式ダイナミック 戦略ファンド	BNY Mellon	外国株式型	2018/5/17	-6,972
8	野村インド株投資	野村	エマージング株式型	2005/6/22	-6,846
9	深セン・イノベーション株式ファンド (1年決算型)	日興	エマージング株式型	2017/11/30	-6,391
10	<b>SMBC・アムンディプロテクト&amp; スイッチファンド</b>	<b>アムンディ</b>	<b>複合資産型</b>	<b>2017/7/28</b>	<b>-6,164</b>

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の真実性・正確性をMABにて調査・確認したのではなく保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- MAB投信指数「MAB-FPI」(以下、本指数)に関する著作権、知的財産権等一切の権利はMABに帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。また、本指数を商業的に利用する場合にはMABの利用許諾が必要です。

**【照会先】**

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリストグループ

標(しめぎ)・澤井

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

TEL:03-6721-1010 FAX:03-6721-1020

URL <https://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

助言・代理業、投資運用業

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会